

校長室だより



平成22年(2010年)7月12日

校長 箱家 勝規

大人の鏡

先日、小学校の協力者会議に出席をしました。

ある委員さんから「毎朝、信号のところで立ち番をしています。小学生のあいさつの声が小さいのが残念です」という発言がありました。また他の委員さんからは「子どもだけでなく、保護者も大きな声であいさつをしてくれると、とても気持ちがいいですね」とお話しがありました。会議は、保護者の方のあいさつについてまで話がおよびました。

最後に「元気にあいさつをしてくれる子どもを育てるためには、まずすべての大人があいさつができるようになることが大事ですね」とまとめられました。

昨日、ある講演会に参加をさせていただきました。

その中で、講師の先生から「子どもは、大人をよく見ています。大人に倣^{なら}っているのです」という言葉がありました。講演を聴きながら、「子どもが育つ魔法の言葉(ドロシー・ロー・ノルト著)」の中の「子どもは大人の鏡」という詩を思い出していました。(一部のみ掲載します。)

子どもは、辛抱強さを見て育つと耐えることを学ぶ
子どもは、正直さと公平さを見て育つと真実と正義を学ぶ
子どもは、励まされて育つと自信を持つようになる
子どもは、ほめられて育つと人に感謝するようになる
子どもは、存在を認められて育つと自分が好きになる
子どもは、努力を認められて育つと目標を持つようになる
子どもは、皆で分け合うのを見て育つと人に分け与えるようになる
子どもは、静かな落ち着いた様子の中で育つと平和な心を持つようになる
子どもは、安心感を与えられて育つと自分や人を信じるようになる
子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと生きることは楽しいことだと知る
子どもは、まわりから受け入れられて育つと世界中が愛であふれていることを知る



この詩に書かれていることは、当たり前なことによくわかっているつもりですが、忘れがちなことです。

子どもをすこやかに育て、その子のよさをのばせるのは、やはり、まわりにいる大人の役割に違いありません。